

持続的成長への競争力とインセンティブ

～企業と投資家の望ましい関係構築～

(企業報告ラボ 特別プロジェクトへの呼びかけ)

一橋大学大学院商学研究科 伊藤邦雄
経済産業省

目的

企業と投資家の対話を深めるプラットフォーム「企業報告ラボ (*1)」の特別プロジェクトとして、日本企業が収益力を高め、持続的に価値を創造していくための方策と、それを支える資本市場のあり方について、日本の経営者や投資家とともに考え、世界の関係者と対話し、提案し、実現に向けて取り組む。

特に、英国の「ケイ報告 (Kay Review) (*2)」等、欧州を中心に世界的に提起されている企業の長期的なパフォーマンスを高めるための資本市場や投資家の役割、短期志向のインセンティブ構造の歪み等の問題について、日本の文脈ではどのようにとらえ、国際的な議論をどのように行っていくべきかということも念頭に検討を進める。

問い

1. 日本企業には、持続的に価値を創造していくための収益力があるか。
問題があるとすれば、その状況 (悪均衡) をもたらす要因とインセンティブ構造はどのようなものか。
2. (内外の) 資本市場と投資家は、日本企業の持続的な価値創造を支えるものとなっているか。
問題があるとすれば、その状況 (悪均衡) をもたらす要因とインセンティブ構造はどのようなものか。
3. 日本企業は、持続的な価値創造を果たすため、投資家ははじめステークホルダーと良い関係 (適切な「緊張と協調」) を築いているか。
問題があるとすれば、その状況 (悪均衡) をもたらす要因とインセンティブ構造はどのようなものか。
4. 上記の問題を改善し、日本企業が投資家はじめステークホルダーとともに、収益力を高め、持続的な価値を創造していくための要素と方策は何か。

進め方（案）

プロジェクトメンバーの知的貢献、「企業報告ラボ」での議論と成果、有識者の研究成果などをもとに、段階的に論点やケースをとりまとめ。国内外の関係者との対話を通じてフィードバックを得て、議論を深掘りし、最終的な報告を公表。

* 1 企業報告ラボ（Corporate Reporting Lab）

- 企業と投資家が、企業価値の向上に向けた対話や開示のあり方を検討、調査、提案する場として、2012年7月「企業報告ラボ（The Corporate Reporting Lab）」を設立。
 - （1）企業と投資家が集い、それぞれの認識の違いを理解し、共通の理解や言葉を探ることで、より建設的な対話を促すことを目指す。
 - （2）日本市場に関心を持つ海外投資家を含む、内外の関係者とのネットワークを構築するとともに、日本からのメッセージを発信することを目指す。
- メンバーからの提案を実現していく形で活動。これまで「企業価値・IR作業部会」や「コーポレートガバナンスの対話のあり方分科会」が提案・設置され、成果を発表。

* 2 国際的文脈と「ケイ報告（Kay Review）」

- 金融危機の反省から、欧州を中心に、投資家（金融機関）や企業の短期主義是正、ガバナンスやステュワードシップの強化、開示や企業報告のあり方の見直しといった議論が行われている。
- 特に英国における「ケイ報告（Kay Review）」は、（英国）企業の長期的なパフォーマンスを向上させるための資本市場、投資家（Investment Chain）の役割について、短期志向やそれをもたらすインセンティブ構造の歪みを指摘。政策提言を行っており、欧州はじめ各国関係者の議論を喚起している。